

平成20年度
「評議員会」報告書

平成21年3月

福井工業高等専門学校

まえがき

本校の評議員会は本校の教育研究目標計画、自己評価その他本校の運営に関する重要事項について学外有識者に審議、評価をお願いし、また助言、勧告をいただくために設けられており、これまで、本校にとって大きな役割を果たしてきた。

現在の本校を取り巻く状況を見てみると、本校は大きなうねりの中にあると言える。平成20年12月には中央教育審議会から「高等専門学校教育の充実について」と題する答申が出された。この中では、科学技術創造立国を実現するには高等専門学校教育の一層の充実、強化を図ることが重要であると述べられている。そのためには、教育内容の充実、教育基盤の整備、教育の個性化、高度化を図ることが求められている。また高専の高度化、再編については平成21年10月から宮城、富山、香川、熊本の4地区において2つの高専が統合した新しい形の高専が誕生することになっている。

更に、今年度は国立高等専門学校55校が1つにまとまって独立行政法人国立高等専門学校機構になって5年目、つまり第1期中期目標計画期間の最終年度にあたる。本校においてもこの5年間で振り返るとともに新たな5年間を見通した中期計画の策定に向けて鋭意検討を進めている。

教育環境の整備については、平成20年夏より念願の本館全面改修工事に着手することができたが、その後国の補正予算において本校の改修経費が新たに認められたので、平成20年度から21年度にかけて機械工学科棟、電気電子工学科棟、物質工学科棟の全面改修工事を実施することが出来るようになった。今後ともより良い教育環境の確保に努めて参りたい。

こうした状況の中、平成21年2月に平成20年度評議員会を開催し、各評議員から多くの貴重なご意見、ご提言をいただいた。

今回、評議員各位からいただいたご意見、ご提言については、学校関係者一同しっかりと胸に受け止め、反芻しながら今後の福井高専の運営や活動にできるだけ反映されるよう努めたい。

福井工業高等専門学校長

池 田 大 祐

目 次

まえがき

I. 福井工業高等専門学校評議員会規則	1
II. 評議員会委員名簿	2
III. 評議員会日程	3
IV. 本校出席者名簿	4
V. 講評	6
VI. 参考資料	1 2

I. 福井工業高等専門学校評議員会規則

平成16年5月13日規則第21号
改正 平成16年 6月 3日規則第23号
平成19年 2月 1日規則第 1号

(設置)

第1条 福井工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、広く学外有識者の意見を聴くための組織として、福井工業高等専門学校評議員会（以下「評議員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 評議員会は、本校の教育研究目標・計画、自己評価、その他本校の運営に関する重要事項について、校長の諮問に応じて審議・評価し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

(組織)

第3条 評議員会は、10人以内の評議員で組織する。

- 2 評議員は、本校教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから校長が委嘱する。
- 3 評議員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、評議員に欠員が生じた場合の後任の任期は、前任者の残任期間とする。

(議長)

第4条 評議員会の議長は、評議員の互選により定める。

(評議員会の開催)

第5条 評議員会は、校長が招集する。

- 2 評議員会は、年1回以上開催するものとする。
- 3 評議員会は、必要に応じて関係者の出席を求め、その意見を聴くことができる。

(守秘義務)

第6条 評議員は、その役割を遂行するうえで知り得た情報を、正当な理由なく漏洩してはならない。

(庶務)

第7条 評議員会の庶務は、総務課が処理する。

附 則

この規則は、平成16年5月13日から施行する。

附 則（平成16年6月3日改正）

この規則は、平成16年6月3日から施行する。

附 則（平成19年2月1日改正）

この規則は、平成19年2月1日から施行し、平成18年10月1日から適用する。

Ⅱ. 評議員会出席者名簿

(高等教育機関の教員等及び経験者)

中 川 英 之 福井大学副学長

(高等教育機関の教員等及び経験者)

西 口 郁 三 長岡技術科学大学副学長

(本校の所在する地域の教育関係者)

小 澤 正 信 鯖江市小中学校校長会会長
(鯖江中学校校長)

(地方自治体等研究機関の研究者等)

笠 嶋 文 夫 福井県工業技術センター所長

(産業界の有識者)

野 村 一 榮 鯖江商工会議所会頭

(産業界の有識者)

本 島 正 勝 信越化学工業(株)磁性材料研究所長

(報道機関の有識者)

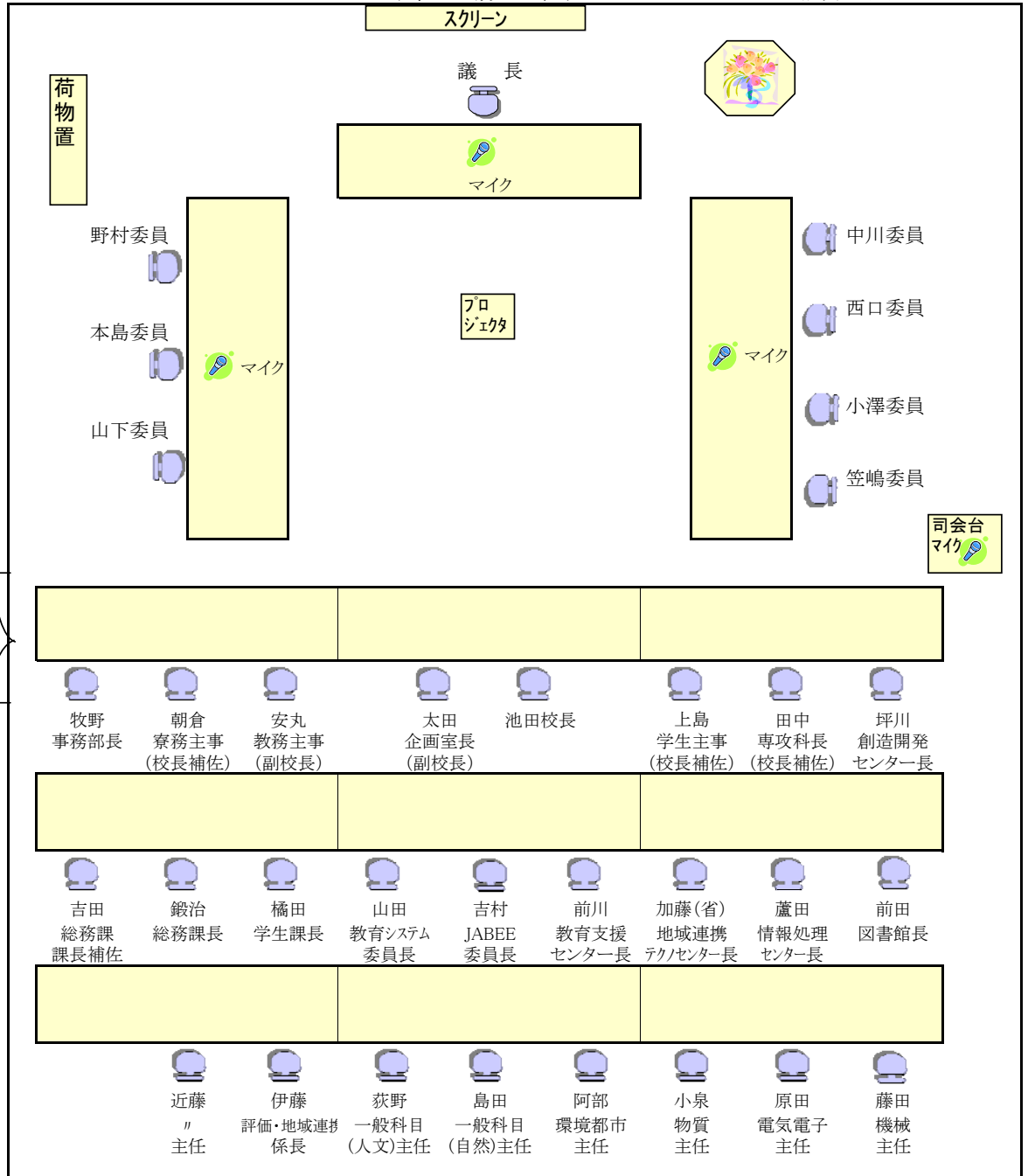
山 下 裕 己 (株)福井新聞社 論説副委員長

Ⅲ. 評議員会日程

1. 日 時 平成21年2月12日(木) 13:30~16:35
2. 場 所 サンドーム福井 管理会議棟1階 研修室103・104
3. 日 程
 - 13:30 【開 会】 校長挨拶, 出席者の紹介, 議長選出
 - 13:45 【1. 本校の概要等】
本校の概要及び中期計画進捗状況について
……………企画室長, 教務・学生・寮務主事, 専攻科長
 - 14:45 — 休 憩 —
 - 15:00 【2. 全体討論・提言】
 - 15:45 — 休 憩 —
 - 16:00 【3. 講 評】
 - 16:30 【閉 会】 校長謝辞
4. 提示資料
 1. 自己点検・評価報告書
 2. 福井工業高等専門学校中期計画進捗状況
 3. 学校要覧 2008
 4. 学生便覧(平成20年度版)
 5. シラバス(本科, 専攻科)(平成20年度版)
 6. 専攻科パンフレット 2008
 7. 教員総覧 2008
 8. 福井高専の歩き方 — 2009 College Guide —
 9. JOINT 2008 —地域連携テクノセンター活動紹介誌—
 10. 平成19年度採択「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」
—起業家育成による実践的キャリア教育の推進— パンフレット
 11. 平成19年度採択「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」
—社会人就職支援と企業人ブラッシュアップ— パンフレット
 12. 図書館利用案内 2008
 13. What's “福井高専”?

会場図

於: サンドーム福井 研修室103・104



V. 講評

[西口委員]

全体的には、よくやっておられると思います。ただ少しお願いしたいのは、一つは国立高専機構ができたのですが、高専がそれぞれ地域性というのですか、高専の特色を失わないでほしい。福井高専さんは地元とかデザインとか、いろいろ優れておられるので、それを伸ばしながら、かつ、他のところも伸ばしていただきたいと思います。機能性分化というのが、大学だけではないに、これから高専にも要求されるのではないかと思います。

それから、ぜひ学生さん、先生方はインセンティブを上手にお付けになってやっていただいて、これからの競争社会というところを小さい頃から経験されたら良いと思いますので、難しいと思いますが、上手に良い意味の競争意識を持っていただいて頑張ってもらっていただいたら非常に素晴らしいのではないかな、と思います。



長岡技術科学大学副学長
(評価及び産学官地域連携担当理事)
西口 育三 氏

[小澤委員]



鯖江市小中学校校長会会長(鯖江中学校校長)
小澤 正信 氏

教育とか研究分野、特に地域と連携されながらということ強く感じましたが、評議員となってみてですね、大変素晴らしい教育をされたと感じました。私達の立場から言うと生徒を送り出す側ですので、今日の説明の中で新しく入学した学生さんに宿泊オリエンテーションを実施するとか、担任副担任制をずっと5年生までやられるという、そのあたりは私どもにとってとてもありがたい制度だと思いますし、是非、このようなきめ細かな指導を続けていただきたいと思います。

昨年度は話題が出たということでございますが、学生のメンタルヘルスという面ですが、小中学生も最近はいろいろな考え方がいますか、いろんな生徒もいまして、時々不適應を起こすとか、そういう生徒もいるわけですが、

そういった学生についてもかなり力を入れていただいていますので、これは是非一層の充実をしていただくと、生徒学生にとっても良いのではないかと思います。1人1人の学生が工学の勉学に励んで、立派な社会人として巣立って行く、あるいは進学するわけですが、今まではあまり重要視をしていなくても済んだ面かと思うのですが、最近は中学校でも随分力を入れておりますので、是非、お力添えを引き続きお願いしたいと思います。

それから、これは私どものこれからの思いですが、今日のいろいろなご説明の実績を拝見させていただいて、我々も高専さんへ生徒を送るときに、今まで以上に目的意識をしっかり持った生徒を送らねばいかんと思いますし、もう一点は、今回随分たくさんいろいろな資料を見せていただいて、改めてもう一度生徒たちに福井高専はこういう良さがあるのですよと、ぜひ話をしていきたいと思っている次第であります。大変取り組み全体として素晴らしい事を実践されていると感じました。

【笠嶋委員】

福井高専さんには長年産学連携で一緒に取り組ませていただいて、大変感謝しています。今日はいろいろお聞きして、先生方の頑張りに驚き、敬意を表したいと思っています。この少子化の時代に、受験者集めから就職先、進学先の指導・世話まで大変だなと思いました。その先生方の頑張り・姿勢が学生に移っている、伝染しているのではないかなと、良い影響を与えているのではないかと私は思います。

私はこの間産業フェアに参加して、福井高専の学生さんは非常にイキイキしていると感じました。それは先生方の頑張り、担任制度もあって、どうも先生に似るなど。私は、それがあんなじゃないかと思っております。この間、読売新聞の記事で大変私は嬉しかったのですが、こういう事が福井県の高専として出るという事が、地域に密着した高専というところの、県民地域社会に根差したものづくり教育を行う地域と連携した産学官共同推進を図る、こういうところは非常に大事で、55の高専がありますが、その地域の特色を活かした県民連合性高専になるべきではないかと。もちろん地域の特色を活かした中で、そして日本に通用する、世界に通用する面もなければなりません、地域の特色を活かした高専というのを前面に押し出していただければなと思っています。これからも今の経営方針で頑張ってください、継続していただきたいと思っています。



福井県工業技術センター所長
笠嶋 文夫 氏

[野村委員]



鯖江商工会議所会頭
野村 一榮 氏

先程いろいろな意見が出ておりましたが、私はこの福井高専が、他の高専は分かりませんが、これほど地域に密着したと申しますか、地域との連携を挙げておられる高専は非常に地元にとってはありがたいと思います。常日頃から感謝をしています。そこで、先程申しましたように、鯖江、それから越前を含めてこの辺はものづくりの町でありますので、是非、地場産業を理解していただくという意味では先生方に地場産業の良さというものを是非理解してほしいなと。そして1人でも多くの生徒に地場の産業に興味を持っていただく。これは少し大袈裟かもしれませんが、鯖江は微細加工技術が日本一だと思っています。長岡にもいっぱいありますが、鯖江も長岡にまけない微細技術を持っていると思います。その意味では今後の高専の生徒が特許を取った、あるいは企業と共同で新しいものに挑戦するというそういった意味での起業家をめざすことも、我々地元としては非常に期待をしています。だから大企業に入るのも一つの方法かもしれませんが、地場の、ゼロからのスタートと言うと大袈裟かもしれませんが、そういう事も一つの今後の将来としては我々は期待しているところです。日本全国的にもこれからはどんどん起業家を育てるとというのが経済的な流れがあると思っていますので、どうかひとつよろしくお願ひ申し上げたいと思います。以上です。

[本島委員]

皆さんがおっしゃっているように、非常に一生懸命やっていたらということ、素晴らしいと思います。今からお話するのは別に今の批判ではなくて、実は日頃私どもの研究所にも毎年2、3名の大学、大学院、高専を含めて入っていますが、一番の問題点というのは、案外、注意されるとか意見を言われるのを嫌うんですね。相手からも、相手に言うのも嫌う。要するに自分で自分の事をやっているのはいい。だから非常にある意味で起業家としてはいいのですが、もう一つあまり言われたりするといわゆる鬱になったりする。要するにそういうトレーニングが少し



信越化学工業（株）磁性材料研究所長
本島 正勝 氏

足りない可能性があると思っています。文句を言われても耐える力というのはですか、変える必要はないのですが、そういうのに上手く対応する力が無いと起業家にはなかなか育たない、それから新しい事ができないだろうと思います。他の大学あるいは大学院でかなり素晴らしい成績を取っている人も、余所の人に言ったり、余所の研究員に口を出さない代わりに口を出してほしくないという、それを少しずつ慣れるような教育をぜひ、他の大学の先生も含めてお願いをしたいと思いますのでよろしくお願いたします。

[山下委員]

だいたい基本的な認識はみなさんと同じですが、先程も言いましたように、かなりいろいろなことを取り組んでおられて肩が痛くなるのではないかという気がするのですが、1、2点。

先程質問もしましたが、やはりこの「豊かな創造力とデザインマインド」というのは福井高専さんとしては特徴としていることだと思います。先程もご説明があったように丹南地域は伝統工芸のテクノバレーのような地域ですから、

こういう素質が必要なのだと思います。けれどもそれをより他の全国の高専とは違うという特徴を主張する為にも具体的な目標の中に感性デザイン力というのと、工学的なデザイン力の両方を少し推進するというような目標があったら

良いかという気がします。また、そういう所も中学生などそういうところにも訴えるし、当然地域での企業との話し合いの中でもそういう特徴を出していくのが高専の特徴的な一つになるのではないかと思います。

それと皆さんからもいろいろ話が出ていますが、5年間という期間の特徴ですね。それにはいろいろな意味でやる事が多くて大変なのですが、5年間の担任制などのいろいろな形で生徒さんを見るわけですから、人格、人間教育を当然基本に置いているのですが、それも一つの高専5年間の特徴にさせていただけるとありがたいと思います。

[中川委員]

委員皆様から講評をいただきました。いくつかの視点で公平に指摘されたと思いますが、まず、高専機構の中で各高専の位置づけに関して福井高専としても、その特徴をもう少し表に出して、将来起こってくるであろう機能分化というものに十分対応していけるような工夫をしていただきたいと思いますということが一つ指摘できたと思います。

それからもう一つ、組織上の問題としまして、専攻科の現在の在籍者数と定員との関係を見



(株) 福井新聞社 論説副委員長
山下 裕己 氏

ますと、だいたい定員の1.5倍ぐらいが在籍している状態に今なっていると思います。今後本科生から専攻科へ進学を希望する人はますます増えてくるのではないかと。大学3年への編入学というルートもあるのですが、高専で専攻科を充実して、さらにその先の大学院の課程から大学へ移るとか、そういうことを基本的なものとして考えていった方が良いのではないかと思います。福井高専としまして、例えば20名の定員に対して今年度は45名の希望者があったという報告がありました、ある意味でのニーズ、学士レベルの教育に対するニーズを踏まえて定員問題はきちんと考えた方が良いのではないかと思います。それが一つ。

それと関連して、これは1高専の問題ではないのですが、学位認定問題が依然としてあると思います。学士課程という形での学位認

定をやっけいこうとすると、今度は高専の教員そのものの資格認定がそれに付いて関係してきますので、その辺の対応を考えて学位認定問題もぜひ取り組んでほしいと思います。

これから工学、工業技術者を育成していくにあたって、もう一つ皆さんのご意見の中で指摘された感性工学的な観点を工学の中に組み込んでいかなければいけないという点が出されました。この点は今高専だけではなくて大学の工学部においてもウィークポイントになっていて、デザイン、企画力を発揮するという創成教育が全国的に行われていますが、そのベースになる人間の感性を工学的に捉えるところが全体に弱くなっています。福井高専でも是非そのあたりを考えていつていただきたいということが指摘されたと思います。

もう一つはメンタルヘルスの問題ですが、昨年度もご指摘があって、いろいろ改善されているというところで、それでいいと思いますが、結局この問題は現在の社会情勢と関係しています。一つはいわゆる競争社会で競争にどう対応したらよいか分からなくなってしまい問題を起こしていると思います。これは生徒、学生だけの問題ではなく教員にも同じことが起こっていると。大学では教員にも同じことが起こっている。競争の概念、捉え方をもう少しきちんと考えておかないと、単に何かを比較して競争させているということだけを進めていると、メンタルヘルスの方で破たんするということがあると思います。生徒に対するメンタルヘルスケアの体制は出来上がってきているのですが、教員のメンタルヘルスも考えていく必要があるということです。

それから何よりも教員も学生も生き生きしている高専にしていくということが何よりも重要でしょう。そのためにも地域の産業や地域社会との連携を深めて、この地域でこの高専がある



福井大学副学長（教育・学生担当理事）

中川 英之 氏

という存在感などをぜひ発揮していただきたいと思います。

メンタルヘルスの問題とも関連してきますが、後の方で指摘された言葉は、耐える力とか人格とか人間力とかその辺が指摘されていますが、教育の中でこういう耐える力を付けていくためには、教員と生徒学生の間での一種の信頼関係がないと耐える力を鍛え上げることは非常に難しいことだと思います。高専の卒業生は相対的に優秀ですので、そのへんは十分に心掛けておられるとは思いますが、今後ますます弱い学生、生徒が入ってくることを考えますと、その対応も十分やっていく必要があるのではないかと思います。

【 総 括 】

全体として今日ご説明いただいたこと、それから自己点検評価に書かれていることを考えると、当高専としては委員からのご意見にもありましたように、非常に良く頑張っている高専であると思います。今後、新しい事を工夫してますます良い高専にしていっていただきたいと思います。最後に、こういう一種の外部評価をするにあたって観点として今国が求めているのは国際化、拠点化、連携という3つのキーワードを高等教育機関、高専・大学に国の方で求めています。これに十分対応できるような強い体質も、ぜひ作っていただきたいと思います。